# 藝林 GEI RIN

第五十一巻　第二号

平成十四年十月

疑ひもなく歴史に於ては個々の瞬間をばその真実の姿に於て直観し、特殊な発展それ自体を観てゆくことも、測り知ることのできない価値を持つてゐる。何故なら、特殊なものは普遍的なものを自分自身の中に担つてゐるのであるから。しかもそれにも拘らず、一つ一つのものにとらはれない自由な立場から全体を概観することの必要は決して否定し得ない。そして事実又誰でも何等かの仕方でさうした全体の概観に達すべく努力してゐる。種々様々な個々の見聞を重ねてゐると知らず知らずの中に我々には全体を統一した或見解が浮び上つて来るものである。

ランケ（『強国論』　相原信作訳）